

行司の木村姓と式守姓の名乗り

根 間 弘 海*

1. はじめに¹⁾

行司には木村姓と式守姓がある。どのように木村姓と式守姓を名乗るかに関しては、拙稿「行司の改姓」(2004)にも扱ってある。ここでは、結論として次のようにまとめている。

- 〔(1) 入門時、兄弟子の付け人になるが、その兄弟子の「姓」を名乗る。姓名を決めるのは、師匠や先輩行司である。
- (2) 入門後は、兄弟子の「姓」が変わるとき、それに歩調を合わせて「姓」を変える。たとえば、式守伊之助や木村庄之助に兄弟子が昇格すると、その「式守」や「木村」に姓を変える。
- (3) 兄弟子の若い頃の名前を受け継ぐように兄弟子から勧められる。「木村」を名乗っていたが若い頃に「式守姓」を名乗っていたため、その「式守」に変える。ついでに「名前」も変える。
- (4) 兄弟子から式守を名乗る行司が少ないため、「式守」に変えるように勧められ、改姓した行司もいる。式守修はその例である。
- (5) 式守系の名前を将来継がせる意図で、兄弟子が木村姓から式守姓へ変えることがある。いきなり位の高い名前を継がせるのではなく、まず低い位の「式守姓」の「名前」を継がせ、時期が来たら高い位

*専修大学経営学部教授

の式守名を名乗らせる。

- (6) 最近は見られなくなったが、昭和30年代以前は師匠と養子縁組をし、「姓」を世襲させることがよく行われた。師匠が「式守」であれば、「式守」を名乗るように変えた。」(pp. 33-4)

本稿では、主として、次のような側面に重点的に扱う。

- (1) 入門時の行司姓はどのように決まるか。
- (2) 入門後の行司姓はどのように決まるか。
- (3) 同一部屋には木村姓と式守姓はいないか。
- (4) 同一部屋で木村姓と式守姓の行司がいなくなったのはいつ頃か²⁾。
- (5) 本場所の兄弟子と付人の関係はどうなっているか。

拙稿「行司の改姓」(2004)でも入門時の行司姓の選択や入門後の行司姓の変更については詳しく扱ってあるが、同一部屋の木村姓と式守姓の存在についてはあまり深く扱わなかった。同一部屋に異なる行司姓の行司がいることから、行司姓は部屋に所属していない。それを指摘するのが、本稿の目的である。

一見、特定の部屋には行司姓が固定しているが、それはたまたまそうなっているだけである。たとえば、式守姓は伊勢ノ海部屋に所属しているとよく言われるが、その部屋にも木村筆之助のように、ある時期は木村姓の行司が式守姓の行司と共にいた。昭和61年7月以降は同一部屋に異なる行司姓の行司がいなくなったが、それ以前はそのような部屋が意外なほどたくさんあった。

2. 木村姓と式守姓の選択

行司姓を決めるには、先にも引用したように、いくつか型がある。それを別の角度から次のようにまとめることもできる³⁾。

- (1) 部屋に兄弟子がいれば、その姓に合わせる。異なる姓の行司がいれば、兄弟子となる行司の姓を名乗る。特に兄弟子が十両以上であれば、間違いなくその姓を名乗る⁴⁾。これがごく普通に見られる名乗りの型である。兄弟子が幕下以下の場合、一昔前はその姓を必ずしも名乗らないことがあった。たとえば、二所ノ関部屋の木村忠男(後の10代式守錦太夫)は部屋に式守慎之助(当時は幕下、後の29代木村庄之助)がいたにもかかわらず、入門当時は兄弟子・木村玉光(後の25代庄之助)の付人になり、木村姓を名乗っている。
- (2) 部屋に行司がない場合、別の部屋の兄弟子の付人となり、その姓に合わせる。たとえば、11代式守錦太夫(宮城野部屋)は入門当時、23代式守伊之助(立浪部屋)の付人となり、式守吉之輔を名乗っていた。この23代式守伊之助が27代木村庄之助を襲名したので、それに合わせて木村吉之輔となっている。
- (3) 部屋に行司がいたが、別の部屋の姓が異なる行司の付人になり、部屋の行司と異なる姓を名乗る。その場合、兄弟子は、もちろん、格上である。二所ノ関には幕下の式守慎之助(後の29代木村庄之助)がいた。木村忠男は中村部屋の木村玉光(後の25代木村庄之助)の付人なり、「木村姓」を名乗っている。普通なら同部屋の「式守姓」を名乗るが、式守慎之助はまだ「幕下」だった。木村忠男は兄弟子の中村部屋に移籍したわけではない。二所ノ関部屋にいたまま、「木

村姓」を名乗っている。因みに、木村忠男が式守慎之助を名乗ったのは、十兩格になったときである。この改名は兄弟子・付人の関係ではなく、将来式守系の名前を継いでもらうことを期待してのものであった⁵⁾。

- (4) 部屋に行司がいるが、移籍してきた異なる行司の付人となり、その姓に合わせる。その場合、移籍してきた行司は格上である。
- (a) 26代木村庄之助の例：入門当時は木村正（井筒部屋）を名乗っていたが、伊勢ノ海部屋から移籍してきた式守与之吉の付人となり、木村正から式守正に変わった。
- (b) 29代木村庄之助の例：入門時は5代式守錦之助（後の7代式守錦太夫）の付人となり、式守春芳（二所ノ関部屋）を名乗っていた。その後、序ノ口時代には16代木村玉之助（中村部屋）の付人になり、木村春芳と改姓している。
- (5) 同じ部屋で兄弟子が変わり、その兄弟子の姓に合わせる。これは異なる姓の行司が同じ部屋にいる場合にも起きる。たとえば、28代木村庄之助は入門当時、20代木村庄之助の付人だったので、式守松尾を名乗っていた。この20代木村庄之助が昭和15年に亡くなったため、兄弟子が同じ部屋の18代式守伊之助（後の22代木村庄之助）になった。木村松尾はその式守伊之助の姓に合わせ、式守松尾に改姓している。

3. 文献で見る行司姓

行司の改姓について述べてある文献もある。その中から何人かピックアップ

ップし、それを紹介する。事実に即した記述をしてあるものもあるし、そうでなさそうな記述もある。後者の場合、なぜそうなのかを指摘する。

(1) 24代木村庄之助 (阿武松部屋)

除隊後の大正13年1月場所では幕下格に据え置かれているが、最後の日(つまり千秋楽)に十両に昇格している。そのとき、木村姓から式守姓に代わっている。『大相撲』(S39.7)の「行司生活55年—24代木村庄之助」で次のように語っている。

「(前略)幕下の頭で1月場所を勤め、最後の日に十両格に昇格した。同時に木村系から式守系に移り、式守義と改名した。13年の1月は関東大震災のために、はじめて本場所が東京からはなれて名古屋で行われた。私は十両で土俵を勤めていたのだが、この名古屋場所後に常の花が横綱になったのである。優勝は栃木山だった。私は初めて木村義から式守義になったのだが、この時は勘太夫を木村系から式守系に移している。」(pp. 45-6)

なぜ木村姓を式守姓に変えたかについては語っていないので、その経緯は分からない。十両での改姓なので、兄弟子との関係ではない。この記述にある「この時は勘太夫を木村系から式守系に移している」という表現を文字どおりに読むと、木村勘太夫が式守勘太夫に変わっている。しかし、番付を調べてみると、そのような形跡がない。式守勘太夫はずっと「式守勘太夫」のままである。この表現には改姓のことではなく、別の意味があるかもしれない。それがどういう意味かは、今のところ、分からない。ここでは、そのような表現があることを指摘するのに留めておく。

(2) 26代木村庄之助 (『大相撲』(S51.11)の「庄之助一代記：26代木村庄之助」)

- (a) 「当時の井筒部屋の行司は兄弟子が3，4人おりましたね。」
(p. 94)
- (b) 「本場所の初土俵は大正8年5月場所でした。井筒部屋は木村の系統で、私は木村正を名乗ったのです。しかし、このあと、後の21代木村庄之助になる当時の式守与之吉が伊勢ノ海部屋から井筒部屋に変わってきて、伊勢ノ海が式守系なので、その弟子になった私は、大正10年5月に序ノ口格になり、式守正となりました。」(p. 95)

最初は、兄弟子の付人として「木村姓」を名乗っていたが、移籍してきた与之吉の付人になり「式守姓」に変わっている。自伝『ハッケヨイ人生』(S41) では、次のように述べている。

「私が所属していた伊勢ノ海部屋は、大きな部屋でした。やがて、9代目の伊勢ノ海、元八国山勇太郎さんが同じ在京年寄仲間の元西の海（2代目）の先々代井筒に行司を貸してくれないかといわれて、私は井筒部屋へ派遣されました。これは大正になってからのことです。いわば、これが私の行司として出世できるようになった発端だった、といまも考えています。

井筒部屋—あそこには行司がいませんでした⁶⁾。私が派遣されていくと、親方は私を見るなりすっかり気に入ってしまったのか、すぐく親切にしてくれました。ずーっと井筒部屋に行っているうちに、あそこのお内儀さんの姪に当たる晴子という娘を私に紹介してくれました。

『どうです、この娘の養子ムコになってくれませんか』

ということで、私はその晴子の養子ムコになりました。いまも私の家内として、よく世話をしてくれています。

私はよくよく養子向きにできていたんでしょう。また、それを機

会に井筒部屋と親交をさらに深めていきました。」(p. 26)

(3) 28代木村庄之助

『大相撲』(S64.9)の「わしの駆け出し時代—立行司式守伊之助(後藤悟)」で次のように述べている。

「昭和13年4月、松翁20代木村庄之助のもとへ入門。15年3月、松翁の没後は22代庄之助泉林八さんの預かり弟子となった。」
(p. 140)

木村庄之助(松翁)の弟子だった時は木村松尾だったが、18代式守伊之助(後の22代木村庄之助)の弟子だった時に式守松男に改姓している。28代木村庄之助は20代木村庄之助の養子にもなっている。

「私の入門2年後に松翁は亡くなったんですが、ほかの人の10年分ぐらい接して教えを受けましたね。亡くなる前に養子にもなりましたし…」
(p. 141)

この養子縁組は松翁の亡くなる前なので、入門時の名乗りとは関係ない。

(4) 29代木村庄之助(二所ノ関部屋)

昭和20年9月の入門時には式守春芳で、兄弟子は二所ノ関部屋の式守錦太夫(7代)だった。『一以貫之』(H14)では次のように述べている。

(a)「もともと錦太夫は陸奥部屋の行司でしたが、玉錦が二枚鑑札になったとき、当時の二所ノ関部屋に行司がいなかったため、錦太夫が移籍してきたという経緯がありました。」(p. 67)

(b)「兄弟子の行司、7代目式守錦太夫(本名:櫻井福太郎)から養子縁組の話があったのは昭和31年、20歳のときでした。錦太夫には、昭和20年に入門した時から世話になっており、兄弟子

の付き人として錦太夫の自宅へはいつも出入りしていましたが、
 ら、養子話はすんなり受け入れることができました。」(p. 65)

式守春芳が付人の頃は、式守錦之助（5代）だった。この式守錦之助は
 後に式守錦太夫（7代）、式守与太夫（9代）となった。

(5) 27代木村庄之助

この行司は式守伊之助（23代）を襲名するまで一貫して木村姓だが、19
 代式守伊之助が師匠（つまり兄弟子）に当たる。『大相撲』(H3.1)の「27
 代木村庄之助—54年の軍配人生に幕…」で次のように述べている。

「(前略) 熊谷宗吉少年と大相撲との巡り合いは、昭和10年の夏、
 小学校4年生のときであった。玉錦、双葉山の一行が盛岡市に巡業
 で訪れ、当時、木村庄三郎を名乗っていたヒゲの伊之助が同旅館に
 宿泊、入門を勧められたのがきっかけだった。

もちろん、両親は大反対であったが、伊之助さんの巧みなごちそ
 う戦術に、すっかりその気になった宗吉少年は、そのまま巡業に合
 流、豆行司として土俵を務めた。」(p. 120)

木村宗吉の兄弟子は木村庄三郎なので、木村姓を名乗っている。木村庄
 三郎は昭和2年春、友綱部屋から立浪部屋に移籍している（自伝『軍配六
 十年』(p. 158)）。

4. 過去の事例

木村姓と式守姓の行司が同一部屋にどのくらいいたかについては、大正
 10年から昭和61年7月までの資料を参考にしている⁷⁾。行司の有資格者(つ
 まり十両以上)になると、辞める確率がかなり低くなるので、ある一定の

年月の間隔をおいて調べることにした。木村家と式守家のトップが名義変更できるようになったのは、明治44年5月以降である。三役以下行司の場合はおそらく大正になってからである。三役以下行司の場合、どの行司が最初に行司姓を変更しただろうか。興味をそそる問題点である。しかし、大正10年以前は部屋名を記した資料が乏しいため、残念ながらそれを確認することができなかった⁸⁾。なお、明治20年5月に木村誠道が式守鬼一郎に改名しているが、これは式守家（7代式守伊之助の未亡人）の養子となったからである。2年後（明治22年5月）には養子縁組を解消し、元の木村誠道に戻っている。当時は、木村家と式守家は異なる系統である。）

(1) 『相撲画報』(T10.1)／(T10.5)の「行司氏名及び所属部屋」(pp.136-7)／(pp.143-4)

(a) 出羽海部屋

式守錦之助、木村善太郎、木村喜市、木村常太郎、木村政夫(見習)

(b) 井筒部屋

式守与之吉、木村誠道、木村左右司、式守正(見習)

(c) 友綱部屋

式守与太夫、木村大蔵、木村玉次郎、式守竹次郎、木村玉堂、木村肇(見習)

(2) 『夏場所相撲号』(S14.5)の「最新行司人別調一覧表」

(a) 錦島部屋

式守与太夫(幕内)、木村今朝三(幕内)、木村筆助(序二段目)

(3) 『相撲と野球』(S18.4)の「行司と行司の部屋別」(p.59)

(a) 出羽海部屋

木村善太郎(幕内格)、式守錦太夫(十両格)

(b) 二所ノ関部屋

式守錦之助 (幕内格), 木村重清 (幕下格)

(c) 庄之助部屋

木村庄之助 (立行司), 式守友好 (三段目)

(d) 高砂部屋

式守与太夫 (三役格), 木村庄次 (幕下格), 木村輝久 (序ノ口)

(4) 『相撲』(S29.4) の「行司部屋別一覧表」(p.29⁹⁾)

(a) 錦島部屋

式守与太夫 (三役), 木村今朝三 (三役), 木村筆之助 (十両)

(b) 出羽ノ梅部屋

式守鬼一郎 (三役), 木村宋四郎 (幕内), 式守武司 (序ノ口)

(c) 時津風部屋

木村誠助 (十両), 式守金策 (序ノ口)

(d) 立浪部屋

木村玉治郎 (十両), 式守清三郎 (十両), 木村勇造 (序二段),
式守金吾 (序ノ口)

(e) 高砂部屋¹⁰⁾

式守錦太夫 (幕内), 木村朝之助 (十両), 木村源之助 (幕下),
木村昭彦 (序二段), 木村富士雄 (序ノ口)

(5) 昭和32年11月, 『大相撲画報』(S32.11, pp.24-7)

(a) 出羽海部屋

木村庄之助, 式守鬼一郎 (三役), 木村宗四郎 (幕内), 木村林
之助 (十両), 木村徳男 (序二段), 木村保之助 (序ノ口), 木
村郁也 (序ノ口)

(b) 立浪部屋

式守伊之助, 木村玉治郎 (幕内), 式守清三郎 (幕内), 式守正夫 (序ノ口)

(c) 伊勢ノ海部屋

式守与太夫 (三役), 木村筆之助 (十両¹¹⁾), 式守義明 (序ノ口), 式守勝治 (序ノ口)

(d) 二所ノ関部屋

式守錦太夫 (三役), 木村真之助 (幕下), 木村玉蔵 (序二段), 木村忠男 (見習)

(6) 『大相撲』(S53.1) の「行司写真名鑑」

(a) 二所ノ関部屋

式守慎之助 (幕内), 木村忠男 (十両)

(b) 出羽海部屋¹²⁾

式守錦太夫 (三役), 木村林之助 (十両), 木村咸喬 (十両)

(c) 立浪部屋

式守与太夫 (三役), 木村正三郎 (十両), 木村旬一 (幕下), 木村雅之助 (序二段)

(d) 伊勢ノ海部屋

木村筆之助 (幕内¹³⁾), 式守勝治 (十両)

(7) 『大相撲』(S58.2) の「全力士部屋別詳細一覧表」(pp.154-8)

(a) 出羽海部屋

式守錦太夫 (三役), 木村林之助 (十両), 木村咸喬 (十両), 式守晋一郎 (序ノ口)

(b) 立浪部屋

木村庄之助, 式守与太夫 (三役), 木村正三郎 (十両), 木村城

之介（幕下），木村雅之介（幕下）

(c) 伊勢ノ海部屋

木村筆之助（幕内），式守勝治（十両¹⁴⁾）

(d) 二所ノ関部屋

式守慎之助（幕内），木村忠男（十両）

(e) 朝日山部屋

式守伊之助，木村正義（幕下）

5. 現在の行司の初土俵と入門時の付人¹⁵⁾

平成23年1月場所中，入門時に誰の付人だったかを行司全員にアンケート調査を行った。それを見れば，兄弟子が誰であるかが分かるからである。

- (1) 立行司 23代木村庄之助（立浪），初土俵：S37.5
兄弟子：木村庄之助（朝日山，23代木村庄之助）
- (2) 立行司 38代式守伊之助（井筒），初土俵：S39.5
兄弟子：木村筆之助（伊勢ノ海，木村筆之助）
- (3) 三役 木村玉光（放駒），初土俵：S40.5
兄弟子：木村玉光（花籠，木村玉光）
- (4) 三役 木村庄三郎（大鳥），初土俵：S40.7
兄弟子：木村玉治郎（立浪，27代木村庄之助）
- (5) 三役 木村正直（朝日山），初土俵：S44.5
兄弟子：木村正直（朝日山，24代式守伊之助）
- (6) 幕内 式守錦太夫（宮城野¹⁶⁾），初土俵：S50.3
兄弟子：23式守伊之助（立浪，27代木村庄之助）
- (7) 幕内 木村和一郎（高田川），初土俵：S50.5

- 兄弟子：26代木村庄之助（君ヶ浜，26代木村庄之助）
- (8) 幕内 木村玉治郎（立浪），初土俵：S51.3
兄弟子：23代式守伊之助（立浪，27代木村庄之助）
- (9) 幕内 木村恵之助（九重），初土俵：S52.11
兄弟子：木村庄太郎（春日野，27代式守伊之助）
- (10) 幕内 木村庄太郎（春日野），初土俵：S54.11
兄弟子：木村庄二郎（春日野，26代式守伊之助）
- (11) 幕内 木村晃之助（九重），S56.3
兄弟子：24代式守伊之助（朝日山，24代式守伊之助）
- (12) 幕内 木村寿行（大島），初土俵：S58.5
兄弟子：27代木村庄之助（立浪，27代木村庄之助）
- (13) 幕内 式守与太夫（高島），初土俵：S59.5
兄弟子：式守勘太夫（伊勢ヶ浜，26代木村庄之助）
- (14) 十両 木村元基（湊），初土俵：S59.5
兄弟子：式守伊三郎（時津風，式守伊三郎）
- (15) 十両 木村秋治郎（三保ヶ関），初土俵：S62.1
兄弟子：25代式守伊之助（出羽海，28代木村庄之助）
- (16) 十両 式守慎之助（二所ノ関），初土俵：H1.3
兄弟子：式守錦太夫（二所ノ関，29代木村庄之助）
- (17) 十両 木村堅二郎（峰崎），初土俵：H2.3
兄弟子：木村庄二郎（春日野，26代式守伊之助）
- (18) 十両 木村要之助（東関），初土俵：H2.3
兄弟子：木村朝之助（高砂，33代木村庄之助）
- (19) 十両 式守鬼一郎（追手風¹⁷⁾），初土俵：H2.5
兄弟子：式守錦之助（伊勢ヶ浜，式守錦之助）
- (20) 十両 木村朝之助（高砂），初土俵：H3.3
兄弟子：木村朝之助（高砂，33代木村庄之助）

- (21) 十両 木村隆男（鳴戸），初土俵：H3.3
兄弟子：木村光彦（二子山，34代式守伊之助）
- (22) 十両 木村光之助（花籠），初土俵：H3.11
兄弟子：木村光彦（二子山，34代式守伊之助）
- (23) 幕下 木村行宏（玉ノ井），初土俵：H4.1
兄弟子：26代式守伊之助（春日野，26代式守伊之助）
- (24) 幕下 式守玉三郎（片男波），初土俵：H4.11
兄弟子：式守錦太夫（二所ノ関，29代木村庄之助）
- (25) 幕下 木村吉二郎（放駒），初土俵：H5.5
兄弟子：木村玉光（放駒，現役）
- (26) 幕下 木村勘九郎（北の湖），初土俵：H5.5
兄弟子：木村善之輔（春日野，29代式守伊之助）
- (27) 幕下 木村千鷲（出羽海），初土俵：H5.11
兄弟子：28代木村庄之助（出羽海，28代木村庄之助）
- (28) 幕下 木村将二（春日野），初土俵：H6.5
兄弟子：木村春夫（春日野，現役・木村庄太郎）
- (29) 幕下 木村亮輔（中村），初土俵：H13.11
兄弟子：木村朝之助（高砂，33代木村庄之助）
- (30) 幕下 木村秀朗（千賀ノ浦），初土俵：H15.11
兄弟子：木村善之輔（春日野，現役・木村庄太郎）
- (31) 三段目 式守一輝（荒汐），初土俵：H17.3
兄弟子：式守与之吉（井筒，現役・38代式守伊之助）
- (32) 三段目 式守正宏（伊勢ヶ浜），初土俵：H18.5
兄弟子：式守勘太夫（伊勢ヶ浜，式守勘太夫）
- (33) 三段目 木村悟志（高砂），初土俵：H18.5
兄弟子：木村恵之助（九重，現役）
- (34) 序二段 木村隆之助（鳴戸），初土俵：H19.5

- 兄弟子：式守慎之助（二所ノ関，現役）
- (35) 序二段 木村達之助（境川），初土俵：H19.7
兄弟子：木村庄太郎（春日野，現役）
- (36) 序二段 式守友和（友綱），初土俵：H20.1
兄弟子：木村庄三郎（大島，現役）
- (37) 序二段 式守輝乃典（佐渡ヶ嶽），初土俵：H20.3
兄弟子：木村玉光（放駒，現役）
- (38) 序二段 木村照一（北の湖），初土俵：H20.5
兄弟子：木村秋治郎（三保ヶ関，現役）
- (39) 序二段 式守志豊（佐渡ヶ嶽），初土俵：H20.5
兄弟子：式守慎之助（二所ノ関，現役）
- (40) 序ノ口 木村一馬（花籠），初土俵：H21.5
兄弟子：木村光之助（花籠，現役）
- (41) 序ノ口 木村勝之助（高田川），初土俵：H21.5
兄弟子：木村和一郎（高田川，現役）
- (42) 序ノ口 木村豊彦（立浪），初土俵：H22.3
兄弟子：木村玉治郎（立浪，現役）
- (43) 序ノ口 式守直太郎（宮城野），初土俵：H22.5
兄弟子：式守錦太夫（宮城野，現役）

6. 同じ部屋で姓が変わっている例

これまで見てきた例は同じ部屋で同時に木村姓と式守姓の行司がいたが、過去を振り返ると年月を隔てて木村姓と式守姓の行司がいた部屋もある。それをいくつか次に示す。これらの部屋でも行司姓が部屋所属でないことが分かる。

(1) 阿武松部屋

(a) 大正10年1月： 木村義松

(b) 昭和18年4月： 式守伊三郎 (十両)

(2) 錦島部屋

(a) 大正10年1月： 式守勝己 (青白房)

(b) 昭和29年4月： 木村今朝三 (三役), 木村筆之助 (十両), 木村義雄 (三段目)

(3) 荒磯部屋

(a) 大正10年1月： 木村善之輔 (青白房)

(b) 昭和29年4月： 式守善吉 (幕内), 式守邦夫 (序ノ口)

(4) 立田川部屋

(a) 大正10年1月： 木村左門 (緋房)

(b) 昭和18年4月： 式守徳則 (序ノ口)

(5) 時津風部屋

(a) 昭和29年4月： 木村誠助 (十両), 式守金作 (序ノ口)

(b) 昭和32年11月： 木村利雄 (幕内), 木村金作 (序二段), 木村弘行 (序ノ口), 木村武夫 (序ノ口)

(c) 昭和58年2月： 式守伊三郎

(6) 宮城野部屋

(a) 大正10年1月： 式守一志

(b) 昭和58年2月： 木村吉之輔

(7) 大鳴戸部屋

(a) 昭和61年1月： 木村英嗣

(b) 平成2年5月： 木村修

(c) 平成4年1月： 式守修一郎

(8) 佐渡ヶ嶽部屋

(a) 昭和60年1月： 式守正男

- (b) 平成6年1月： 木村秀之助
- (9) 片男波部屋
 - (a) 平成元年9月：式守玉司
 - (b) 平成2年1月：木村玉司
 - (c) 平成4年1月：式守玉三郎
- (10) 安治川部屋
 - (a) 平成6年3月： 木村輝生
 - (b) 平成18年3月： 式守憲吾
 - (c) 平成18年5月： 式守正宏

ここで例示してある部屋は、行司の所属する部屋がかなり明確なものである。もっと丹念に調べれば、部屋数はもっと増えることは確かである。これらの部屋から分かるように、行司姓は部屋所属ではない。

7. 異なる行司姓が現れていない部屋

現在まで木村姓と式守姓の行司がいなかった部屋もわずかながらある。そのような部屋をいくつか次に示す¹⁸⁾。

- (1) 木村姓
 - 春日野部屋, 中村部屋, 朝日山部屋, 花籠部屋, 糸川部屋
- (2) 式守姓
 - 伊勢ヶ浜部屋, 浦風部屋, 鏡山部屋, 立田川部屋

異なる行司姓が現在まで一度もなかったのは、入門者が兄弟子の行司姓を途切れることなく受け継いできたからである。これは相撲部屋に行司が常にいたからかもしれないし、兄弟子が一門にいたからかもしれない。部

屋に行司がいなかった場合でも、入門者の兄弟子は一門の部屋に所属していることもある。部屋に行司が途切れることがなければ、入門者は兄弟子の姓を名乗る確率がそれだけ高くなる。しかし、どの部屋にしてもこの状態がずっと続くという保証はない。行司がその部屋で途切れる可能性もあるし、他の部屋から異なる行司姓の行司が移籍する可能性もある。行司姓は部屋に所属するものでなはないので、現在の行司姓が特定の部屋で永続的に続くという保証はない。

もちろん、春日野部屋や木瀬部屋のように木村姓、また伊勢ノ海部屋や式秀部屋のように式守姓をそれぞれ伝統的に名乗り、それを維持する部屋もある。このように、特定の部屋と行司姓が密接な関係にあることは確かだが、部屋に行司姓が固定しているわけではない。もし部屋に行司姓が固定しているなら、異なる行司姓の部屋から移籍してきた行司はその姓を変えなくてはならないはずだ。

8. 昭和61年7月以降

全場所の行司を調べたわけではないが、昭和61年7月以降、同部屋で異姓の行司はいないはずだ。昭和61年7月の2、3年前までは、次に示すように、異姓の行司がいる部屋がわずかながらあった。

- (a) 昭和59年3月には、伊勢ノ海部屋に式守姓の行司と共に木村筆之助（当時は幕内）がいた。また、出羽海部屋でも木村姓の行司と共に式守錦太夫（当時は三役、後の28代木村庄之助）がいた。
- (b) 昭和60年9月には二所ノ関部屋で式守慎之助（当時は幕内）と共に木村忠男（当時は十両）がいた。
- (c) 昭和61年5月には出羽海部屋に木村姓と共に式守晋一郎がいた。式守晋一郎が昭和61年5月場所後に辞めている。

昭和58年以前に関しては、先に示したように、同部屋で異姓の行司がいたのは珍しいことではなかった。

9. 入門順の行司姓

行司部屋が独立してあった頃（S33.1～S48.5）は、入門順に木村姓と式守姓を名乗らせるようにしたという話を時々聞く。その話は噂ではなく、実際にあったかもしれない。というのは、次に見るように、立行司が雑誌対談でそのようなことがあったことを語っているからである。

『大相撲画報』（S35.2）の「行司生活五十年—23代庄之助・20代伊之助氏にきく¹⁹⁾」

記者 一度木村と名乗った行司さんは式守にかえられないのですか？

伊之助 式守という名は、昔は伊勢ノ海部屋系統の部屋に所属する行司だけで、その外はみな木村で、9代目伊之助の時までは木村はずうっと木村、式守は式守で通すことになっていましたが、10代目伊之助が17代庄之助を襲名したときからこのおきてがくずれ、今では都合で木村から式守、式守から木村にかわるできるようになりました。

記者 木村とか式守になるのは最初師事した人によってきまるのですか

庄之助 そうです。たいてい誰かを頼って入門するわけですからその頼ってきた兄弟子が木村なら木村になるわけです。しかし一昨年（S33：NH）行司部屋が独立したので入門順に、たとえば3人入門したら最初は木村、次は式守、その次はまた木村と名乗らせるようにしました。

記者 今度副立行司がなくなりましたが…。

庄之助 副立行司は私の正直時代、私と玉之助さん2人だけでその以前はありませんでしたし、行司も立行司2人、三役格3人、幕内格7人、十両格7人総定員もたぶん45人（現在員は43人）に落ち着くので今後もでないとおもいます。（p.18）

それでは、どの行司がそのような名乗りをさせられただろうか。これを確認するために、昭和33年から34年の頃の行司に関する資料を調べたり、その頃の行司にも何人か尋ねてみたりした²⁰⁾。しかし、それを裏付けるような確証はまったく得られなかった。むしろ、そのような事実はないという話ばかりだった。

29代木村庄之助によると、そのような話があったことは確かだが、一人も実施されていないという²¹⁾。式守姓が当時極端に少なかったために、解決策として入門順にしたらどうかということが話題として論議されたことはあったそうだが。しかし、兄弟子を慕ってきたり、兄弟子が連れてきたりした入門者の行司姓を兄弟子の行司姓と異なるものするのはおかしいということで、入門者順に行司姓を名乗らせることはしなかったという²²⁾。昭和35年2月の雑誌対談で語っていることはあたかも実施されたかのようにになっているが、当時論議されている最中の話であったかもしれない²³⁾。

それでは、現在はどうだろうか。木村姓より式守姓は少ないが、極端に少ないということはない。何人かの立行司に尋ねてみたが、昭和35年以降も入門順に木村姓と式守姓に名乗らせるということはやっていない。ただ、式守姓が極端に少なくならないように、兄弟子や部屋の過去の傾向などを考慮し、入門者の行司姓は決めていることは確からしい。今後も、数のバランスが極端に偏らないようにするために、入門者の行司姓は決めるはずだ。たとえば、行司のいない部屋に入門者がいると、特に異論がなければ、式守姓を名乗るように仕向けることもできる。部屋に行司姓が必ずしも所

属しているわけでないし、過去には多くの部屋で異なる行司姓の行司がいたことも事実だからである。行司姓のバランスを維持しようと思えば、それほど苦勞しなくても済むはずだ。

少し話題が逸れるが、たとえ木村姓と式守姓のバランスが崩れても、特別に問題はない。異なる行司姓を維持しているのは、伝統を崩さなければよいというだけである。異なる行司姓を名乗っても、行司の仕事で特別に支障があるわけでもない。三役以下の行司が木村姓か式守姓だけになったとしても、立行司として式守伊之助と木村庄之助が残っているかぎり、行司姓の伝統は維持されているということもできる。

10. 平成23年1月場所の兄弟子・付人

三役の木村正直は病気のため休場しているが、立行司には付人が二人ずつついている。立行司の組み合わせを2組ずつと考慮すると、全体としては23組となる。

- (1) 木村庄之助（立浪部屋，立浪一門）：木村悟（高砂部屋，高砂一門），木村隆之助（鳴戸部屋，二所ノ関一門）
- (2) 式守伊之助（井筒部屋，時津風一門）：式守一輝（荒汐部屋，時津風一門），木村達之助（境川部屋，出羽海一門）
- (3) 木村玉光（放駒部屋，二所ノ関一門）：式守輝乃典（佐渡ヶ嶽部屋，二所ノ関一門）
- (4) 木村庄三郎（大島部屋，立浪一門）：式守正宏（伊勢ヶ濱部屋，立浪一門）
- (5) 木村正直（朝日山部屋，立浪一門）：休場
- (6) 式守錦太夫（宮城野部屋，立浪一門）：式守直太郎（宮城野部屋，立浪一門）

- (7) 木村和一郎（高田川部屋，二所ノ関一門）：木村勝之助（高田川部屋，二所ノ関一門）
- (8) 木村玉治郎（立浪部屋，立浪一門）：木村豊彦（立浪部屋，立浪一門）
- (9) 木村恵之助（九重部屋，高砂一門）：木村照一（北の湖部屋，出羽海一門）
- (10) 木村庄太郎（春日野部屋，出羽海一門）：木村達之助（堺川部屋，出羽海一門）
- (11) 木村晃之助（九重部屋，高砂一門）：木村一馬（花籠部屋，二所ノ関一門）
- (12) 木村寿行（大島部屋，立浪一門）：式守友和（友綱部屋，立浪一門）
- (13) 式守与太夫（高島部屋，立浪一門）：式守直太郎（宮城野部屋，立浪一門）
- (14) 木村元基（時津風部屋，時津風一門）：式守志豊（佐渡ヶ嶽部屋，二所ノ関一門）
- (15) 木村秋治郎（三保ヶ関部屋，出羽海一門）：木村照一（北の湖部屋，出羽海一門）
- (16) 式守慎之助（二所ノ関部屋，二所ノ関一門）：式守輝乃典（佐渡ヶ嶽部屋，二所ノ関一門）
- (17) 木村堅治郎（峰崎部屋，二所ノ関一門）：式守友和（友綱部屋，立浪一門）
- (18) 木村要之助（東関部屋，高砂一門）：木村勝之助（高田川部屋，高砂一門）
- (19) 木村鬼一郎（桐山部屋，立浪一門）：木村豊彦（立浪部屋，立浪一門）
- (20) 木村朝之助（高砂部屋，高砂一門）：式守志豊（佐渡ヶ嶽部屋，二所ノ関一門）
- (21) 木村隆男（鳴戸部屋，二所ノ関一門）：木村隆之助（鳴戸部屋，二所ノ関一門）

- (22) 木村光之助（花籠部屋，ニ所ノ関一門）：木村一馬（花籠部屋，ニ所ノ関一門）

これは付人の観点からすると，次のようになる。

- (1) 三段目 式守一輝（荒汐部屋，時津風一門）：式守伊之助（井筒部屋，時津風一門）
- (2) 三段目 式守正宏（伊勢ヶ濱部屋，立浪一門）：木村庄三郎（大島部屋，立浪一門）
- (3) 三段目 木村悟志（高砂部屋，高砂一門）：木村庄之助（立浪部屋，立浪一門）
- (4) 序二段 木村隆之助（鳴戸部屋，ニ所ノ関一門）：木村庄之助（立浪部屋，立浪一門）／木村隆男（鳴戸部屋，ニ所ノ関一門）
- (5) 序二段 木村達之助（境川部屋，出羽海一門）：式守伊之助（井筒部屋，時津風一門）／木村庄太郎（春日野部屋，出羽海一門）
- (6) 序二段 式守友和（友綱部屋，立浪一門）：木村寿行（大島部屋，立浪一門）／木村堅治郎（峰崎部屋，ニ所ノ関一門）
- (7) 序二段 式守輝乃典（佐渡ヶ嶽部屋，ニ所ノ関一門）：木村玉光（放駒部屋，ニ所ノ関一門）／式守慎之助（ニ所ノ関部屋，ニ所ノ関一門）
- (8) 序二段 木村照一（北の湖部屋，出羽海一門）：木村恵之助（九重部屋，高砂一門）／木村秋治郎（三保ヶ関部屋，出羽海一門）
- (9) 序二段 式守志豊（佐渡ヶ嶽部屋，ニ所ノ関一門）：木村元基（時津風部屋，時津風一門）／木村元基（時津風部屋，時津風一門）
- (10) 序ノ口 木村一馬（花籠部屋，ニ所ノ関一門）：木村晃之助（九重部屋，高砂一門）／木村光之助（花籠部屋，ニ所ノ関一門）
- (11) 序ノ口 木村勝之助（高田川部屋，ニ所ノ関一門）：木村和一郎（高

田川部屋，二所ノ関一門）／木村要之助（東関部屋，高砂一門）

(12) 序ノ口 式守志豊（佐渡ヶ嶽部屋，二所ノ関一門）：木村朝之助（高砂部屋，高砂一門）

(13) 序ノ口 木村豊彦（立浪部屋，立浪一門）：木村玉治郎（立浪部屋，立浪一門）／木村鬼一郎（桐山部屋，立浪一門）

(14) 序ノ口 式守直太郎（宮城野部屋，立浪一門）：式守錦太夫（宮城野部屋，立浪一門）／式守与太夫（高島部屋，立浪一門）

幕下行司は付人にも兄弟子にもならないので，結局，三段目以下の14人で有資格者（つまり十両以上）22人の付人となる。立行司には二人ずつ付人がついている。従って，一人の行司が二人の兄弟子の付人にならざるを得ない。1月場所では三段目行司は一人の兄弟子，それから二段目以下行司は二人の兄弟子の付人に配属されている。

行司姓の観点からは，この1月場所は，次のような組み合わせになっている。

- (1) 一門同士：15組
 - (a) 同姓：10組
 - (b) 異姓：5組
- (2) 一門以外同士：7組
 - (a) 同姓：3組
 - (b) 異姓：3組

同姓の兄弟子・付人が13組である。異性の兄弟子・付人が8組もある。これは本場所の付人と兄弟子の関係が一体でないことを示している。実際，本場所の付人と兄弟子は常に一定ではない。場所ごとに若干の違いがある。

11. おわりに

本稿で扱ったことをまとめると、大体、次のようになる。

- (1) 入門時の行司姓は兄弟子の行司姓を名乗るのが普通である。入門した部屋に行司がいなければ、同門の兄弟子の行司姓を名乗る。
- (2) 入門後で行司姓を変える場合には二つの型が一般的である。一つは、付人をした兄弟子の行司姓に合わせるものである。もう一つは先輩の行司から改姓の誘いを受けるものである。
- (3) 同一部屋でも木村姓と式守姓の行司が昭和61年5月まであった。しかもそれは普通のことであった。このことは行司姓が部屋に所属していないことを示している。
- (4) 同一部屋で木村姓と式守姓がいなくなったのは昭和61年7月以降である。そのため、それ以降、行司姓は部屋所属のような印象を受けるが、実際は木村姓と式守姓は部屋所属ではない。
- (5) 入門した際に名乗る行司姓の行司が本場所でも同じ行司姓の兄弟子の付人になるとは限らない。木村姓の行司が式守姓の兄弟子の付人になったり、その逆もあったりする。有資格者の数と付人の数は違うし、行司姓にこだわる必要もないからである。

今後、同一部屋で木村姓と式守姓の行司がありうるとすれば、部屋の異動がある場合であろう。相撲部屋は長い目で見れば合併や廃止などがある。その際、廃止された部屋の行司は他の部屋に移籍しなければならない。移籍する部屋に行司がいて、その行司姓がたまたま異なっていたら、その部屋で異なる行司姓の行司が生まれることになる。行司は新しい部屋に移籍しても、行司姓を変えないのが普通だからである。

注

- 1) 本稿をまとめるに際しては29代木村庄之助、現役の35代木村庄之助、38代式守伊之助、幕内筆頭の式守錦太夫にお世話になった。また、平成23年1月場所中、入門時の兄弟子が誰であったかについて現役の行司全員にアンケート調査を実施した。行司監督の一人で十両筆頭の木村元基がそのアンケートを収集し、さらに資料の中で不明な箇所があれば行司に直接確認もしてくれた。このように、幾人かの方々にお世話になっている。ここに改めて、これらの方々に感謝の意を表す。
- 2) 立行司の式守伊之助と木村庄之助は考慮の対象外とする。この両行司の名乗りは部屋とは全く関係ないからである。以前は立行司の付人となった場合、その付人は式守姓や木村姓に変えることもあったが、変えないこともあった。いずれにしても、立行司の式守姓と木村姓は地位を表すもので、行司が自由に選択できるものではない。
- 3) この項で言及されている行司の改姓に関しては、拙稿「行司の改姓」(2004)で詳しく扱っている。
- 4) 入門時だけでなく、三段目以下でも兄弟子の姓に合わせて改正することはよく見られた。たとえば、井筒部屋の木村正(後の26代木村庄之助)は伊勢ノ海部屋から移籍してきた式守与之吉(後の21代木村庄之助)の付人になり、式守姓に改姓し式守正を名乗っている。
- 5) この改名を勧めたのは、同じ部屋の式守錦太夫(9代、後の29代木村庄之助)である。これと似たようなケースとしては、木村修が式守修に改姓している。これらの改姓・改名の経緯は拙稿「行司の改姓」(2004)でくわしく扱っている。
- 6) 21代庄之助が井筒部屋に来たときには、木村正がいた。井筒部屋に誰もいなかったとなると、26代庄之助が語っていることと違うことになる。これは、おそらく、21代木村庄之助の勘違いである。木村正を名乗った時には、兄弟子が木村姓を名乗っていたからである。因みに、井筒部屋の行司はこの21代木村庄之助以降、式守姓を名乗っている。
- 7) 大正元年から大正9年までは行司名は分かっているが、所属する部屋を確認できる資料が非常に乏しい。明治44年以降、木村家と式守家が流動的になってきたので、それ以降、同じ部屋で異姓の行司がいた可能性がある。
- 8) 行司名は番付を見れば分かるが、部屋名を記した資料が大正10年以前は見つからなかった。しかし、それはたまたま資料に恵まれなかっただけで、実際はそのような資料はどこかにあるかもしれない。
- 9) 『大相撲』(S31.9)の「全力士部屋別一覧」(pp.58-62)にも行司の所属が確認できるが、行司の入れ替えが少し変わっている。なお、『新版相撲通になるまで』(『相撲』増刊, S28.11)の「行司部屋一覧表」(pp.53-4)にも2, 3名の入れ替えを除いて、これとほとんど同じものがある。
- 10) 29代木村庄之助によると(H22.4.27)、式守錦太夫は元々陸奥部屋に所属していた。

途中から高砂部屋に移ったのは、巡業などで横綱東富士の横綱土俵入りを引くためである。高砂部屋には十両行司木村朝之助がいたが、十両行司は横綱土俵入りを引けない。高砂部屋の師匠と陸奥部屋の師匠の仲が良かったことから、他の部屋に属していた式守錦太夫（幕内）を借り受けることにしたようだ。式守錦太夫が部屋所属を正式に替えたかどうかは必ずしもはっきりしない。30年代までは巡業を一門別や部屋別に行っていたので、行司の貸し借りは普通のことだった。行司は協会所属という考えがあり、巡業などで行司が必要な場合、所属部屋にあまりこだわることなかったようだ。

- 11) 木村筆之助は錦島部屋から移籍している。伊勢ノ海部屋は元々式守姓である。
- 12) 出羽の海部屋には昭和56年5月にも式守晋一郎（序ノ口）がいる。
- 13) 木村筆之助は一時、木村今朝三を名乗っていたこともある。
- 14) 式守勝治は錦島（幕内力士・有明）の養子で、その次の錦島が行司木村今朝三である。
- 15) このリストの整理をする際には、先にも記述したように、現役の十両筆頭・木村元基に大変お世話になった。お陰で申し分のないリストになっている。三役の木村正直は病気療養中だったが、木村元基が直接電話し、資料を完成している。
- 16) 式守錦太夫は入門時の頃、式守吉之輔と名乗っていた。この改名に関しては、拙稿「行司の改姓」（2004）と「行司の改名」（2005）で詳しく述べてある。
- 17) 式守鬼一郎は入門時、木村修を名乗っていたが、その後、式守修に改姓し、さらに式守修一郎、式守鬼一郎と改名している。この改名に関しては、拙稿「行司の改姓」（2004）で詳しく述べてある。
- 18) 部屋の行司をすべて、過去から現在まで調べたわけではないので、ここに記した部屋が正しいかどうかは必ずしも自信があるわけではない。また、この部屋の例も必ずしもすべてではない。もっと丹念に調べれば、例示すべき部屋は増えるかもしれない。
- 19) この20代式守伊之助は後の24代木村庄之助である。
- 20) 当時行司をしていたのは現在の式守伊之助と木村庄之助である。元行司は29代木村庄之助と33代木村庄之助である。
- 21) この具体的な話しは29代木村庄之助に基づいている。
- 22) 同一部屋でも異なる姓の行司がいるのは不自然でない、入門者に異なる行司姓を名乗らせるのは不自然ではない。しかし、入門者の行司姓を兄弟子のそれと異なることにすることは強い抵抗感があつたに違いない。
- 23) 昭和33年1月（行司部屋の独立）から昭和35年2月（『大相撲画報』の発行日）までに入門した行司には、木村玉治（二所ノ関）、式守健一郎（出羽海）、木村克之（朝日山）等がある。ほとんどが初めは「見習」として採用されている。木村庄之助（24代）が対談の記事で語っていることが正しければ、式守姓行司の内の一人が有力候補である。しかし、それが誰なのかが分からない。因みに、昭和32年秋場所の行司

は全員（病気休養中の木村正信を除く）、『大相撲画報』（S32.11, pp.24-27）に写真と共に初土俵が紹介されている。

参考文献

- 『大相撲人物大事典』, 平成13年, 「相撲」編集部, ベースボール・マガジン社.
 木村庄之助 (22代)・前原太郎, 昭和32年, 『行司と呼出し』, ベースボール・マガジン社.
 木村庄之助 (21代), 昭和41年, 『ハッケヨイ人生』, 帝都日日新聞社.
 木村庄之助 (27代), 平成6年, 『ハッケヨイ残った』, 東京新聞出版局.
 木村庄之助 (29代), 平成14年, 『一以貫之』, 高知新聞社.
 式守伊之助 (19代), 昭和36年, 『軍配六十年』, 高橋金太郎 (発行者).
 『相撲大事典』, 金指基, 平成14年, 現代書館.
 根間弘海, 1998, 『ここまで知って大相撲通』, グラフ社.
 根間弘海, 2004, 「行司の改姓」『専修大学人文科学年報』第211号, pp.9-35.
 根間弘海, 2005, 「由緒ある行司名」『専修人文論集』第76号, pp.67-96.
 根間弘海, 2005, 「行司の改名」『専修大学人文科学月報』第218号, pp.39-63.
 根間弘海, 2006, 『大相撲と歩んだ行司人生51年』(33代木村庄之助と共著), 英宝社.
 根間弘海, 2010, 「改名した行司に聞く」『専修大学人文科学年報』第40号, pp.181-211.
 根間弘海, 2010, 『大相撲行司の伝統と変化』, 専修大学出版局.
 根間弘海, 2010, 「上覧相撲の横綱土俵入りと行司の着用具」『専修経営学論集』第91号, pp.53-69.
 根間弘海, 2011, 「明治の立行司の席順」『専修経営学論集』第92号, pp.31-51.
 根間弘海, 2011, 「明治の四本柱の四色」『専修大学人文科学年報』第41号, pp.143-73.
 根間弘海, 2011, 「天覧相撲と土俵入り」『専修人文論集』第88号, pp.229-64.
 根間弘海, 2011, 『大相撲行司の世界』, 吉川弘文館.